

ポジティブ状況における羞恥感情の年齢差に関する研究

濱田 ひより

指導教員 日道 俊之

研究背景

これまでに羞恥を感じるメカニズムや恥の構造、年齢差や文化差についての研究がされてきた。先行研究においては、年齢が高い方がより多くの場面で羞恥を感じたことが分かっている。しかし、ネガティブな状況もしくはネガティブな状況とポジティブな状況が混合している場面で測定されており、ポジティブな状況のみに焦点を当てた研究は少ない。また、ポジティブ状況に焦点を当てた研究においても羞恥感情の測定方法が適切ではなかった可能性がある。

研究目的

本研究の主な目的は、ポジティブな状況における羞恥の年齢差について検討することであった。加えて、羞恥感情と関連のある自尊心と拒否回避傾向との関係について検討することも目的であった。

分析方法

先行研究を参考にシナリオを作成し、そのシナリオに対して羞恥感情を感じた程度の回答を求める調査を行った。加えて、自尊感情尺度と拒否回避尺度への回答も求めた。羞恥感情、自尊心、拒否回避傾向、そして年齢の相関関係を分析した。

分析結果

年齢はポジティブ状況における羞恥感情や自尊心と有意な相関は見られなかった。その一方で、年齢と拒否回避傾向との間、そして羞恥感情と自尊心の間には有意な負の相関が見られた。羞恥感情と拒否回避傾向の間には、有意な正の相関が見られた。

考察・結論

羞恥感情と年齢には相関が見られず、仮説は支持されなかった。また、先行研究では自尊心と年齢には有意な正の相関が見られたのに対し本研究では相関が見られなかったことから、羞恥を測定するシナリオや項目に問題があった可能性がある。さらに、羞恥感情と自尊心については、ネガティブな状況と同様に自尊心の低減が羞恥の発生と関連することが分かった。羞恥感情と拒否回避傾向に有意な正の相関が見られたことから、周囲からのネガティブな反応を避けるために成功時に羞恥を感じるということが分かった。本研究では、羞恥感情と年齢に有意な相関が見られなかったが、羞恥感情の測定項目やシナリオを再検討する必要があることが示唆されたため、これらの修正の後再検討されることが望ましい。